

管 理	主 な 作 業
①【土づくり】	<p>※水稲が健全に生育するためには「堆肥・ワラ等」の有機物やケイカル等の土壌改良剤を計画的に施して地力を増進する必要がある。</p> <p>有機物の施用 (ワラの場合) 収穫後から年内までに全体に広げ、深耕(15%以上)しておく。 (必要に応じて、石灰窒素(20kg/10a)を11月末までにすき込み施用すると腐熟が進む)</p> <p>完熟牛糞堆肥の場合 10月から2月に全体に施し深耕しておく。(0.5~1t/10a) (土壌改良剤の施用) 秋冬期から早春期に全体に施し混和しておく。(土壌診断結果に基づいて施用) 「ケイカル:100kg/10a」又は、ようりん等</p>
②【育苗の準備】	<p>床土の準備 土を乾燥させフルイにかける。「pHの調整5.0~5.5」 赤土等pHが高い土を使用する場合は、硫黄粉末を播種の1月前までに混和し、pHを「5.0~5.5」に調整しておく(100g/土100kg) 床土消毒を行う。</p> <p>種子の準備 (塩水選) 乾モミ量の目安:3kg/10a うるち:水10%に対して塩2.15kg(もちは1.26kg)浮いたモミを取り除き、良く選別したものを種子として使用する。 (種子消毒) 消毒後の残液には高濃度の農薬が含まれるため、農薬の廃液が生じない塗抹処理が望ましい。</p> <p>浸種・催芽 消毒が済んだ種モミは水切りした後に自然乾燥(水洗いはしない)し、水道水に浸して催芽(ハト胸状態)をする。積算温度は約100℃(平均水温15℃の場合は7日程度)</p>
③【苗の準備】	<p>播種・出芽 ① 時期:5月5日(5月25日田植えの場合参考) ② 播種量:乾モミで一箱150~180g ③ 育苗肥料:一箱あたり育苗肥料を20g(床土に使用した土壌は排除する。) ④ 温度管理:積み重ね育苗の場合 3~4日(積算温度60~64℃)</p> <p>緑化・硬化 ① 緑化時の温度:昼間20~25℃ 夜間18℃程度 ② 硬化時の温度:昼間20℃程度 夜間15~18℃(低温障害に注意すること)</p>
④【防雀網の設置】 【水管理】 【高温時対策】	<p>出穂前に済ませておく(開花時に影響が無いように) 出穂前15日~出穂後10日までの約1ヶ月間は湛水する。 間断かん水を出穂後10日過ぎ頃から始める。 出穂後35日(収穫7日前頃)までは、落水しない。 気温が高くなると品質の低下が起りやすくなる。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行う。</p>
⑤【収穫後の管理】	<p>※収穫後の管理で品質が変わることもあるので収穫方法に応じた管理をする。</p> <p>コンバイン刈り 急激な乾燥はしないで、風乾燥を4~5時間行い水分が20%前後になってから、火力乾燥(40℃を超えないように注意)し玄米水分を14.5%~15%に調整する。</p> <p>バイスター刈り かけ干しを約1週間した後に脱穀し通風乾燥で水分を調整する。</p> <p>選別 籾すり後の選別は、必ず米選機(ライスグレーダー)を使用し網目を1.8mmで行う。</p>